



SPECIAL
INTERVIEW



写真: Getty Images

Good Chemistry

アカデミー賞最有力の心揺さぶる感動作

『アリー/ スター誕生』で魂の演技!

レディー・ガガ

アメリカを代表する歌姫、レディー・ガガが、『アメリカン・スナイパー』の人気俳優ブラッドリー・クーパーの初監督作品『アリー/ スター誕生』に主演し、映画界への本格的な進出を果たした。ガガは、ウエートレスから歌手になり、スターダムを駆け上がっていくアリー役を熱演。劇中曲のソングライティングも手掛けた。『アリー/ スター誕生』のプレミアが行われたベネチア国際映画祭の記者会見で、レディー・ガガがブラッドリー・クーパーとともに撮影を振り返った。



■レディー・ガガ

幼少期からピアノの才能を発揮し、13歳から作曲を始める。14歳の頃には、マンハッタンの名門女子学院に通いながら、夜はナイトクラブで演奏を行っていた。19歳でレコードレーベルと契約し、他のアーティストへの楽曲提供を行う。2008年、『ザ・フェイム』で歌手デビュー。奇抜ともいえるファッションと抜群の歌唱力で一躍世界的スターに。1986年、ニューヨーク、マンハッタン生まれ。



■ブラッドリー・クーパー

ジョージタウン大学を優秀な成績で卒業後、アクターズ・スタジオで演劇を学ぶ。2009年公開の『ハンクオーバー! 消えた花ムコと史上最悪の二日酔い』で人気俳優に。'12年の『世界にひとつのプレイブック』でアカデミー賞主演男優賞にノミネートされ、以降『アメリカン・ハッスル』『アメリカン・スナイパー』と3年連続で同賞にノミネートされた。1975年、米ペンシルベニア州フィラデルフィア生まれ。

⑦9 初めて自分の曲を歌ったときのような気分

What did you feel acting the scene in which Ally performs on stage for the first time?

Lady Gaga I have to say that me and Bradley were so entrenched in the characters that this moment when we were filming felt so real, so alive. We had a live audience watching us. We sang the film live. And because I have never done a film before, as a [n] actress, for me, it was very easy to, kind of, go to a place where I was saying to myself, “OK, I’ve never done this before” and get into that circumstance and then go out and to play. We did many takes of it, and it was the last take, and Bradley came over to me right before, and he said, “OK, now, on this one, I want you just to have fun.” And I...I performed, and I’ll never forget it. It really did feel like I was performing my song for the first time. It was very, very special.

Bradley Cooper While we were filming this movie, we also had the

chemistry:
《タイトル》(人との)相性
act a scene:
シーンを演じる
perform:
①演奏する ②～を演奏する

I have to say that:
～と言わざるをえない、実を言うと～である
be entrenched in:
～に深く入り込んでいる、～になりきっている
film:
①映画を撮影する
②映画 ③～を撮影する
audience:
観客、オーディエンス
live:
①生演奏の ②生で
circumstance:
状況、状態
take:
(映画撮影などの)テイク、一つのカットの1回分のショット
right before:
直前に
have fun:
楽しむ

have the opportunity of doing:
～する機会がある

アリーが初めてステージで歌うシーンを演じてどう感じましたか。

レディー・ガガ 実を言うと、私もブラッドリーもすっかり役に入り込んでいて、だからそのシーンを撮影しているときはとてもリアルに、生々しく感じたわ。実際に観客が見ていて、映画で歌うシーンはライブでした。それに、映画に出るのが初めてだったからこそ、私にとっては女優として割合に楽だったの、何というか、「そう、こういうのは初めての経験だわ」と自分に言い聞かせながら、アリーの心境になってステージに出て歌うということがね。あの場面は何度もテイクを重ねて、最後のテイクのとき、直前にブラッドリーがそばに来てこう言ってくれてね、「よし、さあ、今回はただ楽しんでみて」って。それで歌ったんだけど、あれは忘れられない。実際に初めて自分の曲を歌っているような気分だったわ。ほんとにすごく特別だった。

ブラッドリー・クーパー この映画を撮っているあいだ、僕たちには毎日の